

民衆の声…ボイス[南区版] 公明党横浜市会ニュース

VOICEよこはま

秋季号 《2006・10発行》公明党横浜市会議員団〈南区分室〉〒232-0066 横浜市南区六ッ川4-1129

平成18年

横浜市会第3回定例会報告

9月29日まで行われた横浜市会第3回定例会で補正予算案が可決し、また一步、公明党の主張が実現します。
仁田まさとし市議は13日の議案関連質疑に立ち、市長、交通局長の考えを質しました。

よこはま若者サポートステーション事業

国では公明党がかねてより主張してきた「地域における若者自立支援ネットワーク」のモデル事業が始まっています。

横浜市ではこれらに先駆けて、よこはま若者サポートステーション事業がスタートします。

これは、若年無業者（ニート）などの職業的自立に向けた支援のための取り組みで、総合相談や自立支援プログラム作成、ジョブトレーニングなどの機能をもつネットワークです。

横浜市では、2万2000人のニートと推計（H12年国勢調査）されており、横浜市会公明党ではその対策を強く求めてきました。

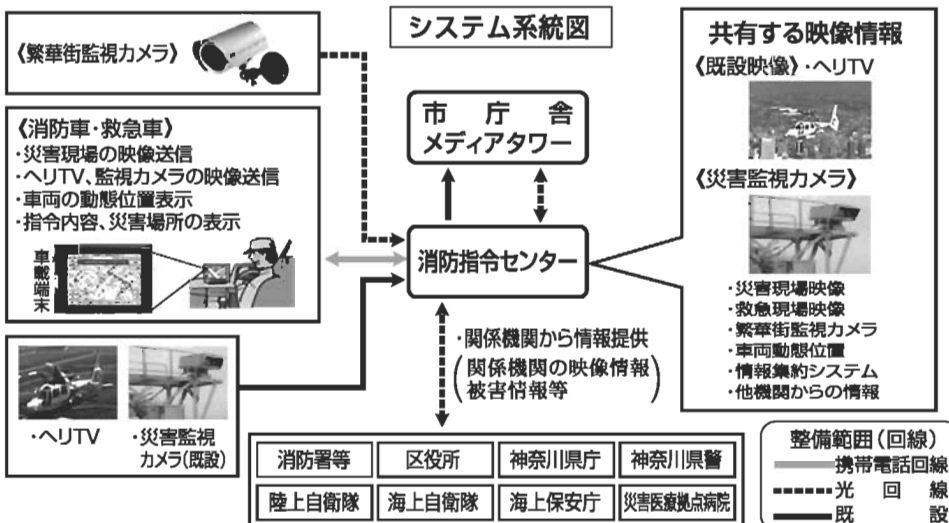


高度安全安心情報ネットワークシステムの整備

災害・危機管理に対応するために必要な画像などの情報を関係機関（市庁舎や消防指令センター、県庁、県警、自衛隊、海上保安庁、災害医療拠点病院など）が共有するネットワークシステムが整備されます。

「今、どこで何が起きているのか」「今、何ができていて何ができていないのか」を関係機関が正確に把握し続けることができるようになります。かねてより横浜市会公明党は、集中共有できる情報ネットワークシステムの構築を強く主張してきました。

今後とも適切な情報管理に つとめ危機管理機能のより一層の向上を図ります。



平成18年 横浜市会第3回定例会

仁田まさとし市議が質問

《11系統》生活交通バス
路線を維持せよ!

中田市長

検討し、できるだけ早期に公表を



交通局へ過剰に支出された行政路線補助金の返還に関する議案に関連し、仁田まさとし市議は、このほど交通局が示したバス路線の再編案(58路線)について質問しました。

仁田市議は、南区の丘陵地帯である平楽唐沢山谷地区を通る11系統の廃止案に対し、関連する地域の皆様が多数の署名と共に嘆願書を提出したことに触れながら、是非とも確保すべき路線と主張しつつ、今回の再編案に対する横浜市としての検討案を早期に示すべきと迫りました。

中田横浜市長は、サービス水準の考え方を述べながら、鋭意検討し内容がまとまり次第できるだけ早期に公表していきたいと答弁しました。

その後に関われた道路・安全管理常任委員会において、生活交通バス路線維持制度が示されました。維持制度の対象は、県協議会が必要と認め、1キロ以上輸送人員が概ね5人以上であり、①駅から1キロ以上、他のバス停から300メートル以上離れる、②最寄り駅まで15分以上かかるなどの「交通不便地域」が生じることも前提となる。運行を請け負う新たなバス事業者に補助金を交付し、市民の日常生活の利便性を確保する仕組み。

仁田市議は、本来横浜市の生活交通バス路線の確保策



増徳院前を走る11系統バス

は交通局の再編案と同時に公表されるべきであり、依然としてその具体的な検討内容が公表されないことにより、路線の沿線住民の不安を深めっていると指摘。それに対し金田副市長は、横浜市としての検討案を未だ示せないことにより市民に不安を与えていることに陳謝し、出来るだけ早期に検討し個別路線について公表する旨答えました。

「生活交通バス路線」に位置づけられた路線については、大学教授などで行く選定委員会が新たな運行水準(区間・便数など)を設定し、市が補助内容を示し事業者を公募することになります。